

## 第 2 章 調査結果

# I. グループインタビュー調査について

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

- ・20～30代の未婚者及び既婚者（離死別含まない）の、結婚、妊娠・出産、子育てについての意識を深堀し、不安要因や社会的背景の問題を抽出・分析を行う。
- ・定量調査の調査票作成のための参考となるよう、仮説抽出を行う。

### (2) 調査方法

グループインタビュー方式

### (3) 調査対象

計 48 名（4 名×4 グループ×3 地域）

- 20 歳～39 歳の男女
- 未婚者 及び 既婚者（離死別含まない）（グループ構成参照）
- 東京（首都圏）、秋田県、福井県 在住者

### (4) グループ構成

東京、福井、秋田の3地域において、性別及び結婚状況別に合計 12 グループのグループインタビュー調査を実施した。グループ構成は以下のとおり。

|    | 男性          |             | 女性          |             |
|----|-------------|-------------|-------------|-------------|
|    | 未婚          | 既婚          | 未婚          | 既婚          |
| 東京 | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） |
| 福井 | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） |
| 秋田 | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） | 1 グループ（4 名） |

### (5) 主な質問項目

- ・結婚・家族形成についての意識
- ・妊娠・出産、子育てについての意識
- ・結婚と仕事についての意識

### (6) 調査実施日

東京：平成 26 年 10 月 28 日（火）～ 10 月 31 日（金）

福井：平成 26 年 11 月 8 日（土）～ 11 月 9 日（日）

秋田：平成 26 年 11 月 15 日（土）～ 11 月 16 日（日）

### (7) 調査実施会場

東京都：(株)日本リサーチセンター（中央区） インタビュールーム

福井県：福井市地域交流プラザ（福井市） 応接室・会議室

秋田県：イーホテル秋田（秋田市） 会議室

## 2. 調査結果

### (1) 結婚・家族形成についての意識

結婚に関して、未婚者は「結婚したい」と考えている人が多いが、その強弱は地域による特色があるように見受けられた。東京では、結婚は「結婚をしたいと思える人」とするものであり、結婚すること自体が目的とはならないという意見が多く、生涯独身でいることも一つの生き方として受け入れられている傾向である。

一方、福井・秋田では「家を継ぐ」という意識があり、結婚は「するもの（しなければならないもの）」と捉えられてようである。特に福井ではその傾向が顕著であった。

結婚に対する阻害要因は、男性において「収入面」がいずれの地域でも共通して挙げられた。

なお、交際に関して、未婚者は異性と知り合う機会自体はあっても積極的に出会いを求めるといふ姿勢はあまり見られなかった。

既婚者（離死別は含まない）において、配偶者との交際のきっかけは、友人等の紹介・職場恋愛・趣味を通じた出会いが多い。

相手からのプレッシャーや妊娠など「結婚の選択を迫られる状況」や、将来の生活の見通しが立ったことや自分が弱った時に恋人が支えとなってくれたなど、「具体的に結婚を考える後押しとなる出来事」が結婚の決め手となっていることがうかがえる。

| 婚姻 | 地域 | 男性   | 女性  |
|----|----|--|---|
|    | 東京 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交際のきっかけは、合コンや共通の趣味を通じた仲間内から関係が発展したものである。</li> <li>・仕事や友人等を通じた人付き合いの中で異性と知り合う機会はあるものの、積極的に出会いを求めてはいない。</li> <li>・結婚の阻害要因としては、収入面（低い・不安定）が挙げられた。また、ある程度収入が増え、仕事にも自信が持てるようになってから結婚をしたいという意識がある。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員に結婚をしたいという意向はあるものの、「絶対にしたい」や「しなければならないもの」とは捉えていない。</li> <li>・良い結婚相手と巡り合えない場合、生涯独身である可能性も見据えている。</li> <li>・友人の集まりやスポーツ等、人と知り合う社交の場には比較的積極的に参加しているが、異性との出会いを第一目的にはしていない。</li> </ul> |
| 未婚 | 福井 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚は縁の問題であり、積極的には出会いの場には参加していない。</li> <li>・縁がなければ生涯独身でも良いものの、自分の老後には不安を覚える。</li> <li>・「長男は家を継ぎ、親の面倒をみるもの」という意識が受け継がれている。</li> <li>・価値観・話が合うことや、互いの両親の家の行き来がしやすいために地元の人と結婚したいという意見もあった。</li> <li>・結婚に対する阻害要因は収入面。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な結婚意向がある場合が多い。</li> <li>・自然と「結婚して、子供を産むもの」という意識が根付いている。</li> <li>・生涯独身では過ごしたくないという意見が多い。</li> <li>・周囲（仕事関係、親/親戚等）からの結婚の話題や紹介を受けることは多い。それをプレッシャーとは感じていない。</li> </ul>               |

(1) 結婚・家族形成についての意識 (続き)

| 婚姻 | 地域 | 男性  | 女性   |
|----|----|---|--|
| 未婚 | 秋田 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚はできたら良いもの。</li> <li>・交際相手がいない場合、結婚を意識する条件として「収入の増加及び安定」と「気の合う相手と出会う」が挙げられた。それがかなわないのであれば、生涯独身も仕方がない。</li> <li>・結婚意向に対する阻害要因は、収入が少ないこと。正規雇用者でも「年収が少なく昇給もあまり望めないため、結婚を現実的には考えられない」。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員に結婚意向はあり、生涯独身ではいたくないと思うものの、結婚するタイミングが「今ではない」と考えている人が多かった。恋愛を楽しむことや仕事を優先させている。</li> <li>・結婚の阻害要因として、家事等の負担が増えるのでデメリットが大きい。</li> <li>・男兄弟がいない場合は、女性が「婿をとって家を継ぐ」という考えは珍しいものではない。</li> </ul> |
| 既婚 | 東京 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の配偶者との交際のきっかけは、「合コンやパーティ」等での出会いや「職場恋愛」が多い。</li> <li>・結婚の決め手は、「子供が出来たこと」「親からのプレッシャー」「資格を取得し将来の生活の見通しが立ったこと」「入院中に献身的に看病してもらったこと」。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の配偶者との交際のきっかけは、「学生時代の先輩後輩だったこと」「職場恋愛」「友人からの紹介」。</li> <li>・結婚の決め手は、「自分が精神面・体調面で弱った時に側にいてくれたこと」や「同棲1年後に入籍することを決めていた」など。</li> <li>・自分を飾らずに一緒にいられる存在だったため結婚した。</li> </ul>                    |
|    | 福井 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の配偶者との交際のきっかけは、「友人・知人の紹介」や「共通の趣味があったこと」。</li> <li>・「結婚して、子供を持つ」ことを当然と捉えられており、自然と結婚に繋がるケースが多い。結婚しないと親に迷惑がかかるため、当然しなければならぬものと認識していた。</li> <li>・交際当初から数年付き合ってお互いに納得した上で結婚するということを想定しているケースが多く、交際期間中に相手の「経済観念(お金の管理ができる/自分に何かあっても経済的に自立できる)」を見極めている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の配偶者との交際のきっかけは、「友人の紹介」「職場恋愛」「街中で話しかけられたこと」「友人関係からの進展」とのこと。</li> <li>・結婚の決め手は、「遠距離恋愛から大学のタイミングで夫の地元に移ったこと」や「妊娠」など。</li> </ul>   |
|    | 秋田 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の配偶者との交際のきっかけは、「同じアルバイト先」「同級生の紹介」「社内恋愛」「スポーツの大会」。</li> <li>・結婚の直接のきっかけは、「相手からのプレッシャーと親が2世帯住宅を建てたタイミング」「相手が30歳になる前に結婚したがって」「どうしてもその相手と結婚したかった」「周囲が結婚し始めて自分が焦っていたこと、家を建てたから」。</li> <li>・「長男が家を継ぐ」という意識は強い。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の配偶者との交際のきっかけは、「共通の趣味」「講演会後の打ち上げ」「同じアルバイト先」「共通の友人」。</li> <li>・結婚の決め手は、「妊娠」「引越し」「自分が結婚したかった」。</li> </ul>  |

(2) 妊娠・出産、子育てについての意識

未婚者では、将来子供が欲しいと考えている人がほとんどであった。兄弟がいた方が良いとの理由から、希望人数は2～3人が多かった。

子供を持つことへの不安要素では、未婚グループで「経済面」と「きちんと子供を育てることができるか」という2点が共通して挙げられた。また、未婚女性では、出産後も仕事と両立できるかという点も不安に感じている。

既婚者において、さらに子供を持つことへの阻害要因は、教育費等の経済面とこれ以上手が回らないという物理的要因が主に挙げられた。また、女性(妻)が年齢的に難しいと判断している場合もある。また、東京の既婚女性グループでは、不妊治療・出産・子育てに関する行政サポートをもっと充実させてほしいという強い要望が挙げられた。

妊娠・出産の医学的情報について、女性の妊娠リスクが高まる年齢が「35歳」であるということの認知は全般的に低く、妊娠・出産の経験のある既婚女性グループにおいては病院等で知った人が多かった。この情報を知ることで、結婚や妊娠を具体的に考えるきっかけになるという反応であった。

| 婚姻 | 地域 | 男性  | 女性  |
|----|----|---|---|
| 未婚 | 東京 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「仲良く」「対等に話ができる」親子関係を理想としている。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「結婚をしたら(するなら)、子供は欲しい」と考えている場合が多いが、子供を持つことが結婚の動機とはならない。</li> <li>・子供を持つことへの不安要素は、「出産後の職場復帰が難しそうであること」「手助けをしてくれる人が近くにいないこと」。</li> </ul> |
|    | 福井 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・欲しい子供の人数は2～3人が多く、自身の兄弟構成をモデルとして考えている場合が多い。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「結婚をして、子供を持つ」ことを一つの自然な流れと捉えている傾向がある。子供の人数は、「3人」あるいはそれ以上の希望があった。</li> <li>・子供を持つことへの不安要素は、「自分の出産年齢」「仕事を続けられるか」。</li> </ul>             |
|    | 秋田 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供を持つことへの不安要素は、「今後子供が育っていく社会情勢」「子供の健康」。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現在の仕事(営業職)を追及しようとする」と仕事と子育ての両立は難しい。</li> </ul>   |

(2) 妊娠・出産、子育てについての意識 (続き)

| 婚姻 | 地域 | 男性   | 女性  |
|----|----|--|---|
| 既婚 | 東京 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・既に2人以上の子供がいる場合、将来3人以上持つ積極的な意向はない。経済的及び物理的に3人を育てることは難しい。</li> <li>・出産・育児に関する苦労や不満は「近くに頼れる人がいない」「父親の育休制度が取れず、妻への負担が大きくなってしまった」「保育園・幼稚園への入りづらさ」。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「妊婦健診・出産費用が無償化されていないこと」「不妊治療への補助がないこと」「保育園・幼稚園への入りづらさ」についての不満あり。</li> <li>・家事・育児の手助けとなっているのは、「保育園・幼稚園」「自分の両親・義理の両親」「ママ友」</li> <li>・ママ友との付き合い方や関係性については個人差が大きい。</li> <li>・家事代行サービスについては他人が家に入ることに強い抵抗感があり、日常的な利用意向はない。</li> <li>・ベビーシッターは高額であることがネック。</li> </ul>                                   |
|    | 福井 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の人数は、「一人っ子にさせたくない」ため2人以上を希望する人が多い。</li> <li>・3人目への阻害要因は、「経済面」と「今の子供で手一杯で物理的・精神的に余裕がないこと」</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出産・育児については、行政等によるサポートが充実している。</li> <li>・共働きが多い地域のため、子育てには理解のある職場環境が多い。</li> <li>・親と同居して子育てを手伝ってほしいという発想は薄く、「親との同居＝親の面倒をみる」という意識のほうが強い。</li> <li>・結婚を機に夫の実家に同居することが多い。その場合は、夫の祖父母や兄弟姉妹を含めた大家族となることもあり、子供の面倒をみる人手は比較的多く確保される。</li> </ul>  |
|    | 秋田 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在子供がおり、これ以上子供を持つ意向がないという人の理由は、「妻の年齢」「教育費がかかる」「妻に意向がない」。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これ以上子供を持つ意向がないという人の理由の中で、「もう1人欲しい気持ちもあったものの、40歳くらいから妊娠リスクが顕著に高まると知り、2人目を踏みとどまった」。</li> <li>・市区町村によって違いはあるものの、子育て支援センターの充実や医療費の無償化・補助等、行政の育児サポートが比較的整っている。</li> <li>・実家が近く親が健在の場合は、高い頻度で子育てを手伝ってもらっている。</li> <li>・職場で不妊治療を受ける場合は異動するように言われた。</li> <li>・育休の前例がなかったために半年の育休を取ったら周囲から驚かれた。</li> </ul> |

(3) 結婚と女性の仕事についての意識

女性は、結婚・出産後も仕事を続けたいという希望を持っている人が大多数であった。

未婚女性では、結婚後も社会との接点を持ち続けることや自分の自由になるお金を持つために仕事を続けるが、家事・育児は自分が主に担当し、夫には家計を担ってほしいと考えている場合が多かった。既婚女性でも同様に、仕事は社会との接点であるという認識がされている。キャリアを追求することより、家庭を優先しながらもやりがいを持って続けられることが重要と考えられていた。

一方、男性では、未既婚にかかわらず妻が働くかどうかについては本人の意思を尊重するという意見が多かった。共働き及び共働きを希望している場合は、家計と家事を分担して互いにカバーし合いたいという理由と、妻に社会と接点を持ち精神的に自立してほしいためという理由が挙げられた。

なお、現在共働きをしている場合、家事・育児を主に担っているのは妻で、夫はできる範囲で「手伝う」というスタンスが多いようである。

福井県の特徴として、「女性も働いていて当たり前」という認識が社会に浸透している様子がうかがえた。

女性は就職の際に結婚・出産を経ても働き続けられそうな会社を選んだり、出産後に時間の融通の利く仕事に転職するなど、「働き続ける」ことを組み込んだ人生設計がされているようであった。

| 婚姻 | 地域 | 男性   | 女性   |
|----|----|--|--|
| 未婚 | 東京 | <ul style="list-style-type: none"> <li>結婚後は、夫婦で家事・育児分担をすることは当たり前と捉えている。</li> <li>結婚相手とは、お互いに尊重し合い精神的に独立した関係を築きたい。共働きを希望する場合、経済的な理由以外に、社会と接点を持ち自立した女性を求める意見もあった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>結婚相手には、贅沢はせずとも生活が成り立つ程度の収入を求めており、結婚後は社会との繋がりを持つためにパート等の仕事をしたいと考えている人が多かった。ただし、家計のために働くのではなく、あくまで家事や育児は自分がメインで担当したい。</li> <li>現在の仕事が忙しい場合、家庭と仕事の両立は難しいと感じている。</li> </ul>   |
|    | 福井 | <ul style="list-style-type: none"> <li>結婚の不安・阻害要素が収入面である場合、家事・育児を分担しながら夫婦で家計を支えたい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>全員が結婚後も仕事を続けたいが、基本的には家計は夫に支えてほしいという意見が多い。</li> <li>家事・育児は、主には自分（妻）が行い、家事で苦手なことや手の回らないものを夫に手伝ってもらいたいイメージを抱いている。</li> <li>子供の頃から共働き家庭で育った人が多く、女性も「社会の一員」として役に立ちたいという発想がある。</li> </ul>   |
|    | 秋田 | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人で家計を担えないと感じている場合は共働きを希望している。その場合、夫婦で家事分担をして「互いにカバーし合いたい」とのこと。ただし、収入面の心配がなければ、家にいてほしい。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>結婚相手には、「普通」の暮らしができる安定した経済基盤を求める。自分（妻）もフルタイムで働くことを想定している場合と、自分はパートタイムで働いて家事をメインに担うことを希望する場合がある。</li> <li>「仕事」にやりがいを持っている、あるいは、やりがいを持てるようになりたいと思って取り組んでいる。</li> <li>キャリア志向が強い対象者では、「結婚」と「仕事」のどちらかを選択しなければいけないと考えている。</li> </ul> |

(3) 結婚と女性の仕事についての意識 (続き)

| 婚姻 | 地域 | 男性  | 女性   |
|----|----|---|--|
| 既婚 | 東京 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事・育児の分担には家庭によってかなり差があるが、メインは配偶者（妻）が担っていることが多い。ただし、自分の仕事の調整が出来る場合、役割を明確にし、50:50で分担している。</li> <li>・子供が小学生の間は、母親である配偶者に専業主婦として家にいて欲しい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事は自分にとって「必要」という意識が強かった。経済的な理由だけでなく、仕事にやりがいを持って取り組んでいる人が多かった。</li> <li>・結婚や出産で仕事を一旦離れた際に閉塞感を感じた経験から、自分にとっての仕事の重要性を認識した。</li> </ul> |
|    | 福井 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事・育児は妻がメインで行っているものの、自分（夫）の分担を明確に決めている場合もある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に家事・育児は女性がメインで担っており、妻の指示で夫が手伝うという構図が多い。女性が中心となり家庭を取り仕切っている。</li> </ul>  |
|    | 秋田 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・共働き家庭では、育児や家事は女性の負担が大きく、男性はできる範囲で手伝うというバランスが多い。</li> <li>・妻の仕事について、夫からの強い意向はないものの、共働き家庭は経済的な理由が大きい。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事は、「社会との接点」と捉えている。</li> <li>・現在専業主婦で、経済面及び社会との接点を復活させたいとの理由から、仕事を持つことを具体的に計画している。</li> </ul>                                      |